



# かけこう

掛合分校  
後援会  
事務局  
(0854)  
62-0084



## 『地域と』

ふるさととともに



校長  
山崎 誠

掛合高校も、二〇二三年、つまり来年には創立70周年を迎えます。人間で言えは古希です。古希は珍しいほど長生きである、つまり希(まれ)であるという意味があるそうです。70周年を迎えることができるのも、ひとえに後援会の皆様、地域の皆様を支えられ応援されてきたからだと思っています。心よりお礼申し上げます。

さて、十二月に演劇同好会の自主公演が、三刀屋高校と合同でチェリヴァホールを会場にありました。同じ時期に、松江であった全国高等学校文化連盟(通称:高文連)の大会でも上演する機会があり、それを観た県外の管理職の先生から、感動したことを伝えたいと校長室あてに電話やメールが届きました。まったく面識のない先生方です。讀まない衝動に駆られての行動だったと思います。

そのうち、電話をくださった茨城県の県立高校の校長先生が、校長室より(校長メッセージ)に書かれていた文章を紹介します。

「二年ぶりに、全国の高校文化仲間が一堂に会して島根県松江市で開催された全国高等学校文化連盟研究大会。演劇のワークショップでは、三人の生徒の皆さんが演ずる実際の舞台を見るのができた。彼らは『島根県立三刀屋高等学校掛合(かけ)分校』、冒頭に触れた『その学校』の『演劇同好会』の皆さん。キャストが三人と少人数であり、一人何役もこなしながらの演技となる。ボイスパーカッション等も取り入れたそのパフォーマンスには圧倒された。最後に彼らから発せられた、『満員

## 三年生

### 林業体験



七月十五日(木)、飯南町にある島根県中山間地域研究センターにおいて、三年生が林業体験学習を行いました。

同センターの広大な敷地内にある、鳥獣対策やきのこ類栽培の研究施設等を見学した後、葉用としての効果が注目されている、クロモジの葉を使ったお茶の試飲を行いました。その後、地域研究科の貴田理紗研究員に講演いただき、途中、地元定住に関するワークショップなどをおこなった後、中山間地域の現状と課題について理解を深めることができました。

午後、学習では、ドローンの操作や丸太の切り出しVRを使った木材の伐採・運搬など、島根県の林業の現状や同センターにおける研究成果について、体験的に学ぶことができました。生徒は、生徒はたくさん触れ、島根県の林業の先進性を肌身で感じる事ができたようでした。



SINCE 1953

## 一年生

### 農業体験学習

九月八日(水)と九日(木)の二日間、一年生が掛合町内八カ所の事業所に分かれて、農業体験学習を行いました。農業体験学習を行ったのは、飯石森林組合、だんだんファーム(以上、掛合地区)、板持農園、下組加所(以上、松等地区)、岡田牧場、クラシック島根カントリークラブ(以上、多根地区)、別木農園・松村農園(入間地区)、波多交流センター(波多地区)の八カ所です。一年生は、年度当初から掛合町内五地区に分かれ、それぞれの地区の調査・探究学習を行っており、今回はその担当地区で農業体験学習を行いました。



このうち、別木農園ではトルコギキョウの栽培が行われており、



生徒たちはハウスに入って園芸用ネットの手入れを行いました。また、下組加工所では梅を漬けて梅肉に加工する作業を行いました。最初は慣れない手つきで作業を行っていましたが、受け入れていただいた事業所の方や交流センター職員の皆様の指導を受けながら、緊張感の中にも楽しさを感じながら体験学習を行うことができました。

## 二年生

### 地元企業見学

九月九日(木)、二年生が地元企業見学に出かけました。この日は株式会社アルフロン島根工場(雲南市加茂町)、雲南市木次経済文化会館チェリヴァホール(雲南市木次町)、株式会社吉田ふるさと村(雲南市吉田町)、島根イーグル株式会社、協栄金属工業株式会社



(ともに雲南市掛合町)の五社を見学させていただきました。どの企業においても、生徒からの質問に丁寧に答えていただき、将来の進路選択にあたって有益な学習をさせていただきました。

## 令和三年度 文化祭 掛高祭 2021



十一月五日(金)と六日(土)の二日間、掛合体育館において令和三年度文化祭「掛高祭2021」を開催しました。今年度の開催

テーマ「笑顔・輝く個性で祭りを彩る」のもと、これまでの学習活動や取り組みの成果を、保護者や地域の皆様に発表しました。

【一日目】午前中は、これまで「総合的な探究の時間」などで取り組んできた地域調査や探究活動成果を、学年ごとに発表しました。一年生は、年度当初から掛合町内五地区に分かれ、それぞれの地区の特色や課題の解決策についてまとめた内容を発表しました。二年生は同じく年度当初から吉田町民谷山地区の農家とコラボで取り組んできた、ブランド米「うやま米」の販売促進戦略について、その取組の成果を発表しました。会場入り口のロビーでは、宇山管農組合の皆さんによりそ



のコラボ米の新米が特別価格で販売され、二年生が作成した販売促進のためののぼりやPR動画の効果もあり、たくさんのお客で大盛況となりました。

また三年生は、学校設定科目「地域創造」で七グループに分かれて取り組んでいた、雲南市の魅力

をより一層高めるための方策についてポスター発表を行いました。午後、図書委員会主催の「ピリオパト」が行われ、出場者五人が自分の紹介したい本について熱く語りました。また演劇同好会が、九月に行われた出雲・石見地区高校生演劇発表会で演じた「走れ!走れ!走れ!」を全校生徒の前で発表しました。

生徒会主催の「掛高クイズ」や「Uta Bu(うたぶ)」の発表など、全校生徒が参加し、祭りの気分を大いに味わいながら楽しく盛り上がりました。この日は、掛合町文化協会の皆さんの書道や絵画、工芸品などのアート作品が数多く展示され、会場全体を彩りました。また、この日は石見厚志雲南市市長が来



いたPTA  
Cafe」が  
開かれ、フ  
ードデザイ  
ン選択生徒  
が作った焼  
菓子販売に  
合わせて、  
コーヒーお  
しるこなど  
が



をいただくとともに、三年生がまとめたポスターをじっくりと観ていただきました。ロビーでは、PTAの皆さんにご協力いた

クトに携わって  
 きた二年生が  
 自らデザイン  
 した衣装（は  
 っぴ）に身を  
 をくるみ、宇  
 山宮農組合の  
 皆さんととも  
 にお米やおに  
 ぎりの販売を  
 行いました。  
 また店内では、  
 生徒が作成したPR動



この二日間は、店舗の屋外に特設テントが建てられ、生徒がデザインしたたくさんのおぼりやポスターがお客さんを出迎える中、プロジェ

くの関係者との関わりの中で、改めて地元地域の良さを知らることができました。今回の協働学習でお世話になった宇山



宮島町の宇山、雲南町支所の宇山



てお客さんの手元に渡るという一連の流れを肌身で感じることで、二年生にとっては大変有意義な体験学習となりました。また多

的・主体的探究活動としての、掛合分校の学習活動を語る上で、なくてはならないものとなっています。

当日は卒業を前にした三年生が、令和四年二月九日（水）の午時過ぎから音楽室を会場として、ステーション・コンサートを開いた。

この日は、



んできたのです。今年度から名称を「個人課題研究校内成果発表会」と変えたこの卒業研究発表会は、今や生徒の自主

関係する調査方法や創意工夫の有無など、総合的な観点からは熟意や視聴者への伝達力などを点数化して評価し、優秀賞を決定します。審査の結果、優秀賞の受賞者は次のように決まりました。



の、たくさんの  
中学校から生徒  
が相集うため、  
まずは友達づく  
りから始めなけ  
ればなりません  
。まして分校  
は3年間クラ  
ス替えもなく、  
同じメンバーで  
学校生活を送り  
ます。心配や不



販売され、生徒や保護者、地域の来場者など多くの方が買い求めています。



で、生徒たちがこれまでも準備してきた成果が形となって表れる充実した二日間の間となり、今年度の文化祭は大盛会のうちに幕を閉じました。

開催にあたってご協力いただいたすべての皆様へ厚くお礼申しあげます。

学校を取り巻く数多くの方の温かいご協力のおかげ



吉田町農家とのコラボ米  
「うやま米」新米特別販売会

十月十三日(土)と十四日(日)の二日間、二年生が吉田町民会館宇山地区の宇山営農組合とのコラボにより取り組んできたブランド米「うやま米」を応援するプロジェクトの総仕上げとして、道の駅「たたらは香番地」(松江自動車道「雲南吉田IC」隣接)において、そのコラボ米(新米)の特別販売会を行いました。



モーション)が商品棚を飾り、県外からの観光客を含む多くのお客さまが販売コーナーの前で足を止めて、商品を手にとっていました。十三日(土)には石飛厚志雲南市市長や景山明雲南市教育委員会教育長にも足を運んでいただき生徒からのお米の特徴についての説明を熱心に聞いていただきました。

販売された「うやま米」には、宇山  
営農組合と掛合分校とのコラボをシ  
生農デザインのスィンボルマークの表  
ルが貼られ、この二日間は天候にも恵  
まれたことも後押しして、準備したお  
米が概ね完売となるほどの賑わいとな  
りました。

春先の田植えから始まり、秋に自ら  
刈り取った稲がこのような商品となっ

室（松江市）や藤本米穀店（松江市）の皆さんに改めて感謝申しあげます。そして、この協働活動は、今後、二年生から一年生に受け継がれ、来年度に向けて引き続き高校生目線での新たなアイデアを提案していきます。

半世紀を超える伝統  
今も佐中に息づく  
「個人課題研究校内成果発表会」

過去の周年記念誌を紐解くと、掛分校の卒業研究発表会は昭和44年度に始まったとあります。爾来、研究内容を模造紙やOHPで表現したものから現在のプレゼンテーションソフトを用



で、発表す  
タイトルこ  
変わっても  
生徒が主体  
的に取り組  
んだ画期的  
な問題解決  
型学習とし  
て、半世紀  
を超える長  
い歴史を刻

てとなり、リモート開催による卒業研究発表会には、不慣れな機器操作など事前の心配をよそに、困難さを伴うと思われた「離れた場所との意思疎通」という課題も見事に乗り越えてくれました。

三年生一人ひとりが取り組んできた個人課題研究のテーマは、自分の趣味や健康増進から卒業後の仕事内容に関するものまで多岐にわたります。その中から、時間・態度・発表技法をはじめ発表技術に関わるもの 内容に深

も、三年生が身近な題材に着目した上で、自分で仮説を立てながら検証し、提言まで持ち込む個人研究の醍醐味を肌で知ることができた貴重な機会

則として、後援会長様・PTA会長様以外は卒業生と保護者のみという区分寂しいものとはなりましたが、旅行中の日を迎えた20名の掛高生は、三平のお世話になった先生や地域の皆様、支え合った仲間との別れを惜しみつつ共に過ごした思い出深い学び舎をあとにしました。

思い起こせば三年前、義務教育を終えたばかりのまだ初々しい生徒達ばかり期待と不安の交錯した眼差しを我々に

令和四年三月一日（火）午後一時半  
掛合分校の令和三年卒業証書授与式  
が執り行われました。新型コロナウイルス

